

# 一般外科・小児外科・肛門外科

## 1. 概要

### (1) 一般外科・小児外科

2019年の手術総数は1,797件で、2018年の1,724件と比べ若干の増加であった。そのうち15歳以下の小児手術は169件、全緊急手術は339件(339/1,797、19%)でこれは2018年の22%(総数372件)と比べ若干減少した。しかし、このうち鏡視下手術は118件(118/339、35%、昨年101件30%)で昨年より増加していた。

全症例について総覧すると対象疾患は、虫垂炎やヘルニアといった日常的な疾患から甲状腺(38件)・消化器・乳腺(136件)まで幅広い。腹腔鏡下手術は、胃癌手術32件(32/98、32%、昨年28%、一昨年32%)、大腸癌切除109件(109/224、48%、昨年33%、一昨年34%)、肝部分切除14件(14/29、48%、昨年58%、一昨年50%)、腓体尾部切除1件(1/15、6.7%)に対し行われ、特に大腸癌手術において全体の件数は変化ないものの鏡視下手術の割合が増加している。虫垂や成人鼠径ヘルニアに対してもさらに積極的に腹腔鏡を導入し、虫垂炎手術で69件(69/108、63%、昨年40%、一昨年30%)、鼠径ヘルニア手術31件(31/192、16%、昨年16%、一昨年8%)と減少することなく経過している。最近では腹壁癒痕ヘルニアに対しても腹腔鏡下Tension free repairを用い、2019年にも1件(1/17件、14.3%)に行った。

2014年11月より直腸癌に対するロボット支援下手術を臨床研究として開始し一昨年までは順調に症例を伸ばしたが、他科とのロボット機器の枠の調整の影響もあって近年は伸び悩んでおり、2018年は7件、2019年には12件に留まっている。一方、2015年4月から早期胃癌に対して行っているロボット支援手術は、症例に恵まれ2019年は17件行った。乳癌手術は131件(昨年138件、一昨年144件)であった。乳房温存手術は86件(86/131、65%、昨年41%、一昨年43%)、センチネルリンパ節生検陰性は97件で、昨年とほぼ同様の傾向であった。肝切除は40件で、疾患別内訳は、原発性肝癌15件、転移性肝癌20件、胆道癌1件、その他4件。膵頭十二指腸切除は26件行い、すべて亜全胃温存で行われた。この疾患別内訳は、膵癌14件、胆嚢・胆管癌7件、乳頭部癌1件、IPMN2件、その他2件。食道悪性腫瘍は6件に根治手術が行われ、すべて3領域郭清であった。上部消化管潰瘍穿孔16件のうち非手術的保存療法は7件(44%)だった。腸閉塞入院は146件のうち36件(25%)に手術が施行された。小児外科手術は169件あり、名古屋大学小児外科と連携し治療に当たっており、新生児手術は3件であった。一般外科全体の入院総数は2,353人と昨年の2,310人より1.8%増加し、平均入院期間は9.8日で昨年の10.6日よりわずかに減少し、昨年に引き続き連続して減少し続けている。

(第一部長 平松 和洋)

### (2) 肛門外科

“肛門外科”は当院移転新設に伴い、単科標榜された。現在は厚生労働省の標榜指導にて『肛門外科』だが、診療・治療は一般外科と共同で運営している。外科外来診療における統計では、悪性疾患治療を除くと痔核を筆頭とした肛門疾患、肛門に関する症状にて受診される患者が多い。多くの施設がそうであるように外科外来当番医が対応していることもあるが、肛門というデリケートな部分で専門性を必要とするため、やはり専門家での診療・治療を希望される方も多い。当院肛門外科は、近隣の診療施設から併存症を有する患者の紹介も多い。肛門外科標榜での診療日は木曜日の一日だけであるが、常勤で外科診療に携わっている利点から、日々時間が許す限り診察や治療に当たっている。外来診察の際は、患者は「恥ずかしい」との思いを持たれている、また専門性を求めて来られる方が安心して受診できるよ

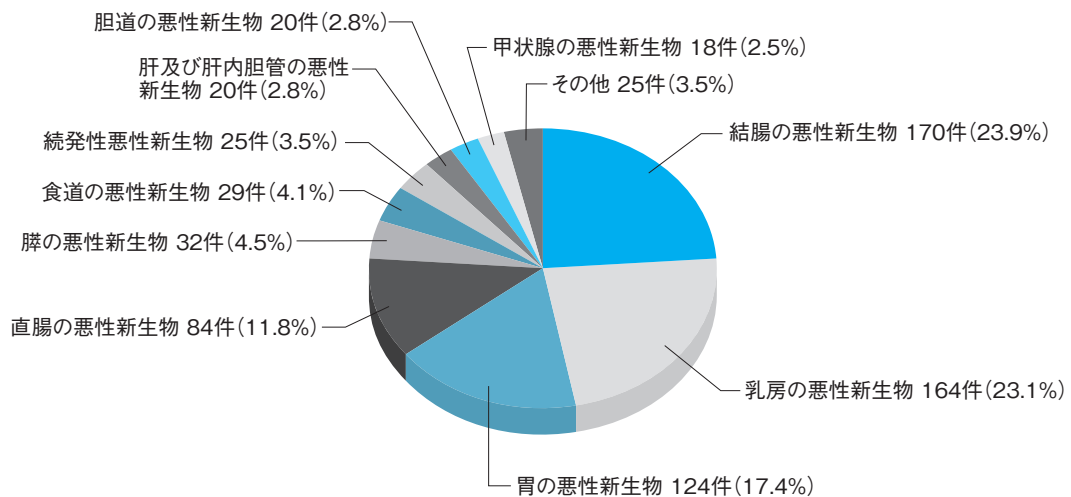
うな対応・環境整備（看護師同席・カーテン）を心掛け、診察で不自由・不快な思いを持たれないように努力している。外来処置や生活指導・薬物療法など保存治療に重きを置き、症状によって手術適応を決めている。近年大腸がんも増加傾向にあり、肛門症状で受診された患者には大腸検査を受けていただくようにしている。専門外来として“ストーマ外来”を認定看護師とともに行っている。

（部長 柴田 佳久）

## 2. 新規登録疾患

### (1) 悪性新生物

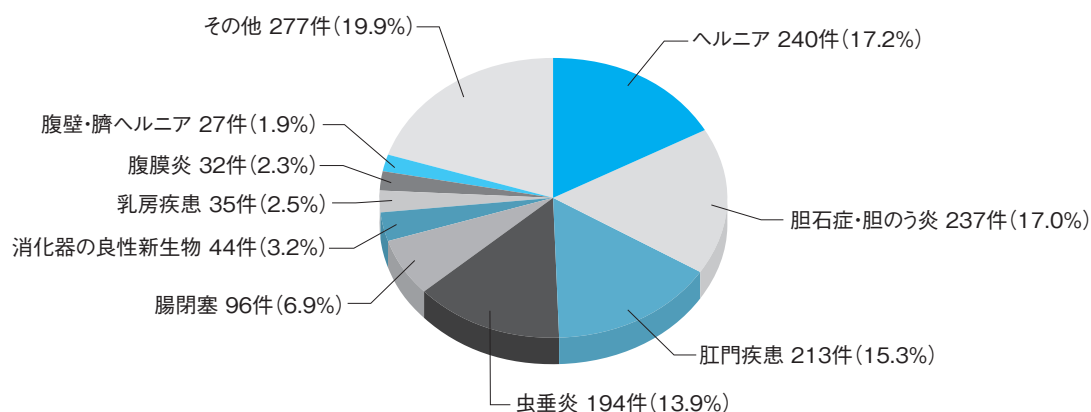
総数：711件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
結腸の悪性新生物	結腸の悪性新生物, 上行結腸	52	C182
	結腸の悪性新生物, S状結腸	52	C187
乳房の悪性新生物	乳房の悪性新生物, 乳房, 部位不明	79	C509
	乳房の悪性新生物, 乳房上外側4分の1	44	C504
胃の悪性新生物	胃の悪性新生物, 胃, 部位不明	104	C169
直腸の悪性新生物	直腸の悪性新生物	84	C20
膵の悪性新生物	膵の悪性新生物, 膵, 部位不明	13	C259
	膵の悪性新生物, 膵頭部	11	C250
食道の悪性新生物	食道の悪性新生物, 胸部食道	11	C151
統発性悪性新生物	肝及び肝内胆管の統発性悪性新生物	16	C787
肝及び肝内胆管の悪性新生物	肝及び肝内胆管の悪性新生物, 肝細胞癌	16	C220
胆道の悪性新生物	その他及び部位不明の胆道の悪性新生物,肝外胆管	14	C240
甲状腺の悪性新生物	甲状腺の悪性新生物	18	C73

## (2) 悪性新生物以外

総数：1,395件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
ヘルニア	一側性又は患側不明のそけいヘルニア, 閉塞及びえ疽を伴わないもの	213	K409
	両側性そけいヘルニア, 閉塞及びえ疽を伴わないもの	10	K402
胆石症・胆のう炎	胆のう炎を伴わない胆のう結石	135	K802
	急性胆のう炎	52	K810
肛門疾患	痔核, 詳細不明	112	K649
	裂肛, 詳細不明	22	K602
虫垂炎	急性虫垂炎, その他及び詳細不明	141	K358
	詳細不明の虫垂炎	27	K37
腸閉塞	閉塞を伴う腸癒着[索条物]、イレウス, 詳細不明	32	K565、K567
	その他及び詳細不明の腸閉塞	30	K566
消化器の良性新生物	口腔及び消化器の性状不詳又は不明の新生物, その他の消化器	17	D377
乳房疾患	乳房の良性新生物	35	D24
腹膜炎	急性腹膜炎	30	K650
腹壁・臍ヘルニア	癒痕ヘルニア, 閉塞及びえ疽を伴わないもの	13	K432
	臍ヘルニア, 閉塞及びえ疽を伴わないもの	11	K429

### 3. 活動報告

#### (1) 患者状況

年間外来患者数	40,048人	年間外来新患者数	2,372人
年間入院患者数	24,814人	年間入院新患者数	2,236人

#### (2) 2019年1月～12月入院概要 (全2,353人、平均入院期間9.8日、未退院4名除く)

疾患名	治療法	患者数 (人)	平均入院 期間(日)
イレウス	手術	36	9.2
	保存療法	110	15.2
外傷	手術	8(2医原)	6.7
	IVR	5	19
	保存療法	13	8.5
血管系緊急 (塞栓・解離など)	手術	0	-
	IVR	1	39
	保存	5	7.6
合併症治療 (感染性)	保存療法	11	18.5
合併症治療 (出血性)	IVR	1	13
	保存療法	3	7.3
合併症治療 (その他)	保存療法	4	15.8
抗がん剤有害事象	保存療法	33	9.4
	緩和療法	1	35
その他	IVR	1	3
	保存治療	25	9.1
	予定手術	22	5.2
	緊急手術	0	-
その他/悪性	保存治療	3	15.7
	緊急手術	1	1
	放射線治療	0	-
その他/悪性	予定手術	13	14.8
	手術	19	5.5
甲状腺/悪性	手術	19	5.0
副腎良性	予定手術	1	5
新生児	緊急手術	1	445
非新生児	手術	133(1)	3.0
	保存療法	16	3.9
腹腔内癌再発	手術	7	42.1
	保存・緩和療法	2	34
腹膜炎	手術	35	26.2
	保存療法	31	9.1
ヘルニア	手術	224	3.1
	保存療法	7	5.0
痔核・痔瘻	手術	19	5.5
	保存療法	2	3

疾患名	治療法	患者数 (人)	平均入院 期間(日)
虫垂	手術	116	4.2
	保存療法	35	6.5
胃十二指腸/ 良性	緊急手術	9	10.9
	予定手術	7	37.7
	保存治療	7	10.3
肥満症	予定手術	3	13.7
胃十二指腸/ 悪性	手術	121	19.5
	化学療法	27	3.8
	放射線治療	2	45.0
	緩和療法	6	13.3
肝胆膵脾	保存療法	39	11.4
	手術	330	8.7
	保存療法	60	13.3
	緩和療法	5	18.4
肝胆膵脾	化学療法	0	0.0
	放射線療法・IVR	5	29.8
	手術	276(1)	15.4
	化学療法	3	2.0
小・大腸/悪性	保存療法	79	14.3
	緩和療法	25	13.6
	放射線治療・IVR	2	19.0
	手術	43	13.3
小・大腸/良性	保存療法	6	5.7
	手術	1	8.0
食道/良性	保存療法	1	10.0
	手術	5	32.0
食道/悪性	保存療法	14	18.4
	化学/放治	14	10.1
	緩和療法/放射線	4	37.3
乳腺/その他	手術	5	2.6
乳腺/悪性	手術	139	7.6
	保存療法	37	14.5
	緩和療法	8	24.8
	化学/放治	8	26.3
CVポート関連	保存療法	2	4.5
	手術	39	3.3
術後後遺症その他	保存療法	53	13.5

( ) : 未退院の数

(3) 一般外科・小児外科手術数(2019年) 1,797例

①一般外科	1,797	(a)小腸切除	19(X)
全身麻酔	1,446	(b)腸瘻造設	9
脊髄麻酔	62	(c)腸瘻閉鎖	24
局部麻酔	289	(d)腸吻合	2
(ア)甲状腺	38	(e)結腸直腸切除	14(4)
a 良性疾患		(f)大腸亜全摘	3
(a)部分切除	0	(g)癒着剥離	22(X)
(b)葉切、亜全摘、全摘	19	(h)経肛門／経仙骨	0
b 悪性疾患		(i)単開腹／その他	7(X)
(a)部分切除、亜全摘、他	12	b 悪性疾患	
(b)全摘	6	(a)腸瘻造設	21(X)
(c)その他	1	(b)腸吻合	1
(イ)乳 腺	142	(c)小腸切除	5
a 良性疾患 摘出	4	(d)結腸切除	147(64)
腺管区域切除	1	(e)直腸切除(高位、低位) …	57(34、ロボットX)
b 悪性疾患	137	(f)直腸切斷	17(11、ロボットX)
(a)定型乳切	0	(g)経肛門／仙骨的切除	0
(b)非定型乳切(Bt+Ax)	38	(h)骨盤内臓全摘	3
(c)Bt±SLNB	51	(i)大腸亜全摘	0
(d)乳房温存手術±SLNB	46	(j)単開腹／その他	1
(e)Tm他	2	(カ)虫垂炎(虫垂／回盲部切除)	108(69)
(ウ)食 道	6	(キ)肝/胆/膵/脾	
a 良性疾患	1	(a)肝部分切除	29(14)
b 悪性疾患		(b)肝区域／葉切除	10
(a)胸部食道切除	5	(c)胆嚢床切除	1
(b)その他	0	(d)開腹胆嚢摘出術	12
(エ)胃・十二指腸		(e)腹腔鏡下胆嚢摘出術	232
a 良性疾患		(f)開腹胆管切開術	2
(a)胃切除、胃全摘	2	(g)胆管消化管吻合	0
(b)体網充填	17	(h)胆管切除	1
b 悪性疾患		(i)膵頭十二指腸切除(PD)	0
(a)幽門側胃切除	68(25、ロボットX)	(j)亜全胃温存PD	26
(b)胃全摘	30(7、ロボットX)	(k)膵体尾部切除	17(X)
(c)噴門側胃切除	0	(l)膵全摘	1
(d)胃腸吻合	5	(m)膵部分切除	0
(e)楔状切除／十二指腸切除	7(4、LECSX)	(n)膵管空腸吻合	0
(f)PD	0	(o)脾摘	3(2)
(g)試験開腹／その他	5	(p)胃腸吻合	0
(オ)小腸・大腸		(q)単開腹／その他	4
a 良性疾患			

(ク)内分泌	
(a)副甲状腺	0
(b)副腎	1(1)
(ケ)ヘルニア	
(a)鼠径大腿	192(X)
(b)腹壁・臍・閉鎖孔など	27(X)
(コ)痔核痔瘻	20
(サ)局麻手術	
(a)摘出、生検	33
(b)その他	120
(シ)外傷／医原性	7
(ス)腹膜炎	58(X)

(セ)腹腔内癌再発	17(X)
(ソ)その他	28(X)
②小児外科(全例全身麻酔)	169
(ア)新生児手術	3
(イ)鼠径ヘルニア	72(X)
(ウ)虫垂切除	27(21)
(エ)精巣固定	15(X)
(オ)臍形成	10
(カ)幽門筋切開	2
(キ)その他	40(X)

( )内はその内の鏡視下手術件数、ロボット支援手術